

● 教室(診療科)の特色 ●

手術麻酔・ペインクリニック・集中治療・救急医療・緩和医療・在宅医療(同門の先生と連携)・老人医療(関連施設)を担当しています。また、麻酔科学を修得することで、入局してから引退するまで(ゆりかごから墓場まで)、「ジェネラリスト」として様々な分野の診療ができます。



南 敏明(みなみ としあき)教授

■専門分野

麻酔科学・疼痛治療学

■職歴

1987年3月 大阪医科大学(現 大阪医科大学)卒業
1987年6月 大阪医科大学麻酔科学教室に入局
1993年3月 大阪医科大学大学院修了 医学博士
2002年4月～ 大阪医科大学教授
2006年6月～2018年3月 関西医科大学客員教授
2020年4月～ 大阪医科大学附属病院(現 大阪医科大学病院) 病院長

■主な学会/専門医資格

日本麻酔科学会 代議員 指導医
日本ペインクリニック学会 評議員 専門医
日本臨床麻酔学会 評議員

■研究課題

神経障害性痛のメカニズムの解明と治療薬の開発



中平 淳子(なかひら じゅんこ)講師(科長)

■専門分野

麻酔科学・心臓血管麻酔

■職歴

2003年3月 大阪医科大学(現 大阪医科大学)卒業
2003年4月 大阪医科大学麻酔科学教室に入局
2008年3月 医学博士
2019年4月～ 大阪医科大学麻酔科学教室講師
2020年4月～ 大阪医科大学附属病院(現 大阪医科大学病院) 麻酔科・ペインクリニック科科長

■主な学会/専門医資格

日本麻酔科学会 指導医
日本心臓血管麻酔学会 専門医
日本臨床麻酔学会

■研究課題

周術期の呼吸評価、肺容量の変化



日下 裕介(くさか ゆうすけ)特別任命教員教授

■専門分野

麻酔科学・集中治療医学

■職歴

2004年3月 大阪医科大学(現 大阪医科大学)卒業
2004年4月～2006年3月 初期臨床研修
2006年4月 大阪医科大学麻酔科学教室に入局
2013年9月 医学博士
2016年4月 大阪医科大学麻酔科学教室講師
2020年5月～ 大阪医科大学麻酔科学教室特別任命教員教授

■主な学会/専門医資格

日本麻酔科学会 指導医、日本集中治療医学会 専門医
日本心臓血管麻酔学会 専門医

■研究課題

動脈圧波形解析、周術期の輸液・輸血療法

● 診療科の概要・特徴 ●

大阪医科大学病院では、2022年、全手術件数12,833件、麻酔科管理症例7,129件と豊富な症例を経験できます。また、ペインクリニック外来は、1966年、故兵頭正義教授が日本においては東京大学に次いで2番目に開設され、伝統があります。2023年までの医局員の出身大学は25大学からなります。

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	研究課題
日下 裕介(特別任命教員教授)	日本麻酔科学会指導医・日本集中治療医学会専門医・日本心臓血管麻酔専門医 日本専門医機構麻酔科専門医	心臓血管麻酔・集中治療
梅垣 修(准教授)	日本麻酔科学会指導医・日本集中治療医学会専門医・日本専門医機構麻酔科専門医	集中治療
中平 淳子(講師)	日本麻酔科学会指導医・日本心臓血管麻酔専門医	心臓血管麻酔・呼吸管理
間嶋 望(講師)	日本麻酔科学会指導医・日本ペインクリニック学会専門医・日本専門医機構麻酔科専門医	小児麻酔・ペインクリニック
中野 祥子(講師)	日本麻酔科学会指導医	小児麻酔
藤原 淳(講師(准))	日本麻酔科学会専門医	麻酔科学・心臓血管麻酔
中尾 謙太(講師(准))	日本麻酔科学会指導医・日本ペインクリニック学会専門医・日本専門医機構麻酔科専門医	麻酔科学・ペインクリニック
門野 紀子(助教)	日本麻酔科学会指導医・日本集中治療医学会専門医	麻酔科学・集中治療
下山 雄一郎(助教)	日本麻酔科学会指導医・日本集中治療医学会専門医・日本専門医機構麻酔科専門医	麻酔科学・集中治療
今川 憲太郎(助教)	日本麻酔科学会指導医・日本ペインクリニック学会専門医	麻酔科学・ペインクリニック
北 埜 学(助教)	日本麻酔科学会専門医	小児麻酔
上野 健史(助教)	日本麻酔科学会専門医・日本小児科学会専門医	小児麻酔
佐野 博昭(助教)	日本麻酔科学会指導医・日本ペインクリニック学会専門医・日本専門医機構麻酔科専門医	麻酔科学・ペインクリニック

■ 連絡先：大阪医科薬科大学医学部麻酔科学教室 TEL:072-683-1221 / e-mail:ane000@ompu.ac.jp

■ ホームページ：<https://www.ompu.ac.jp/u-deps/ane/>

氏名(職掌)	専門医	研究課題
長峯達成(助教)	日本麻酔科学会指導医・日本専門医機構麻酔科専門医	心臓血管麻酔
山崎智己(助教)	日本麻酔科学会専門医・日本心臓血管麻酔専門医	心臓血管麻酔
藤澤貴信(助教(准))	日本麻酔科学会専門医	心臓血管麻酔
進藤真美子(助教(准))	日本専門医機構麻酔科専門医	麻酔科学・ペインクリニック
富畑 翔(助教(准))	日本専門医機構麻酔科専門医	麻酔科学・救急医療
野田祐一(助教(准))	日本専門医機構麻酔科専門医	小児麻酔・集中治療
成尾英和(助教(准))	日本麻酔科学会専門医	麻酔科学・ペインクリニック
鳥井理那(助教(准))	日本専門医機構麻酔科専門医	麻酔科学
三井寛明(助教(准))	日本専門医機構麻酔科専門医	心臓血管麻酔

初期研修プログラムの特徴

本院の中央手術室では、2022年には麻酔科管理症例7,129件と症例が非常に豊富であり、心臓血管麻酔、小児麻酔、産科麻酔などをバランスよく研修ができます。麻酔科標榜医取得には、「医師免許を受けた後、麻酔の実施に関して十分な修練を行うことのできる病院または診療所において、2年以上修練をしたこと。(医療法施行規則第42条の4第2項第1号。)」が必要ですが、そのためのキャリアとなります。

研修内容

手術麻酔

<1年目>

- ① 静脈路確保
- ② マスク換気
- ③ 声門上器具挿入
- ④ 気管挿管
- ⑤ 胃管挿入
- ⑥ 全身麻酔管理
- ⑦ 親血的動脈カテーテル留置
- ⑧ 中心静脈穿刺
- ⑨ 脊髄くも膜下麻酔

<2年目>

- ① 手術麻酔の1年目の内容
- ② 肺動脈カテーテル挿入
- ③ 硬膜外麻酔
- ④ 分離肺換気

ペインクリニック(2年目, 1-2ヶ月)

- ① 疼痛の基本的知識の理解
- ② 疼痛疾患の問診
- ③ ペインクリニックにおける代表的な疾患の診断と治療法の理解
- ④ 各種神経ブロックの適応と方法の理解
- ⑤ 各種薬物療法の意義と施行方法の理解

⑥ 理学療法の理解

⑦ 手技の実践

- ⑩ トリガーポイント注射
- ⑪ 仙骨部硬膜外ブロック
- ⑫ 持続硬膜外ブロック
- ⑬ 膝関節注射

集中治療 (ICU) (2年目, 1-2ヶ月)

- ① 重傷集中治療の基本概念の理解
- ② 重症患者の病態把握
- ③ 循環系モニタリング(動脈圧、肺動脈カテーテル等)の評価
- ④ 循環作動薬の使用
- ⑤ 呼吸不全の病態の理解
- ⑥ 人工呼吸器を使用した呼吸管理
- ⑦ 急性血液浄化
- ⑧ 感染症治療の基礎
- ⑨ 栄養管理

評価方法

日本麻酔科学会専門医により、研修内容の評価を行う。



ペインクリニック外来集合写真



手術室集合写真

専門研修プログラムの特徴

2016年に手術室20室、集中治療室16床を含む中央手術棟が新設され、麻酔科医局と集中治療部医局はその2階にあります。手術麻酔、ペインクリニック、集中治療、救急医学、緩和医療を網羅したジェネラリストや、心臓血管麻酔、小児麻酔、産科麻酔などのスペシャリストを育成することを目標としています。

輪状甲状腺膜穿刺のシミュレーションを含む種々のセミナーや土曜カンファレンスでのミニレクチャーなどにより、専門医試験に向けた対策を行っています。また学会発表・論文作成の指導、将来の志望に応じた人事面でのサポートなどを行っています。



心臓血管麻酔の様子

プログラムの運営方針

- ・4年間で手術麻酔の各専門分野(心臓血管麻酔、小児麻酔、産科麻酔など)を網羅的に研修するだけでなく、麻酔科専門医に求められるペインクリニック、集中治療、救急医療、緩和医療に関しても一定期間研修する。
- ・研修の前半2年間のうち少なくとも1年間は、責任研修基幹施設の大阪医科薬科大学病院で研修を行う。
- ・責任研修基幹施設では手術室麻酔だけでなくペインクリニックや集中治療を調整の上、一定期間ローテーションする。
- ・希望により国立循環器病研究センター、兵庫県立こども病院で1年間の研修を行う。
- ・研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- ・目標達成のため、困難気道管理、神経ブロックのシミュレーションセミナーを毎年開催する。超音波ガイド下中心静脈穿刺及びPICCは、医療安全推進室主催の講習会参加を必須とする。また、麻酔科専門医試験対策のセミナーを実施して、円滑に専門医に必要な知識・手技を習得できるように計画する。
- ・最低経験症例を満たしながらも、各自の希望を相談しサブスペシャリティの構築を目指す柔軟なプログラムとする。

研修実施計画例

	標準	小児麻酔または血管麻酔	ペインクリニックまたは集中治療	社会人大学院
初年度	本院 (ペインクリニック、集中治療)	本院	本院	本院
2年度	専門研修連携施設1	天理よろづ相談所病院	専門研修連携施設1	専門研修連携施設
3年度	専門研修連携施設2	兵庫県立こども病院	専門研修連携施設2	本院
4年度	本院	本院	本院 (ペインクリニックまたは集中治療)	本院

取得できる認定医・専門医

麻酔科標榜医、日本麻酔科学会認定医・専門医・指導医
日本ペインクリニック学会専門医、日本集中治療医学会専門医
日本救急医学会専門医・指導医、日本心臓血管麻酔学会専門医
日本緩和医療学会専門医、日本小児麻酔学会認定医

2022年麻酔科管理症例数

1963年 麻酔科認定病院取得
麻酔科管理症例 7,129症例

	症例数
小児(6歳未満)の麻酔	331症例
帝王切開術の麻酔	156症例
心臓血管手術(小児・成人)の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	417症例
TAVI・ステントグラフト手術	101症例
呼吸器外科手術の麻酔	410症例
脳神経外科手術の麻酔	480症例

大学院における教育・研究活動

教育・研究指導方針

研究は、臨床研究、基礎研究、さらに基礎研究でも動物（マウス、ラット）、細胞を用いた研究を行うかは、まず個人の意思を尊重している。研究テーマは、「痛み」が中心で、興味あるテーマがあれば柔軟に対応している。

研究活動の現状

岐阜大学大学院医学系研究科再生医科学専攻、大阪工業大学工学部生命工学科との共同研究、合同カンファレンスを行っている。

現在の研究テーマ

- ① 南 敏明 教授
神経障害性痛のメカニズムの解明と治療薬の開発
- ② 日下 裕介 特務教授
動脈圧波形解析、周術期の輸液輸血療法
- ③ 梅垣 修 准教授
重症集中治療医学に関する臨床研究
- ④ 中平 淳子 講師(科長)
肺手術後の残存肺の研究
- ⑤ 間嶋 望 講師
小児麻酔に関する臨床研究
- ⑥ 中野 祥子 講師
周術期の疼痛管理

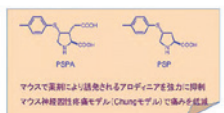
研究業績

原 著

- ① Minami T. et al. Pain. 50: 223-229, 1992. (学位論文)
- ② Nishihara I. et al. Brain Res. 677: 138-144, 1995. (学位論文) (日本麻酔科学会若手研究者奨励賞)
- ③ Onaka M. et al. Anesthesiology. 84: 1215-1222, 1996. (学位論文)
- ④ Hara N. et al. Br. J. Pharmacol. 121: 401-408, 1997. (学位論文) (日本麻酔科学会若手研究者奨励賞)
- ⑤ Sakai M. et al. Br. J. Pharmacol. 123: 890-894, 1998. (学位論文)
- ⑥ Okuda-Ashitaka E. et al. Nature. 392: 286-289, 1998.
- ⑦ Eguchi N. et al. Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A. 96: 726-730, 1999.
- ⑧ Nakano H. et al. J. Pharmacol. Exp. Ther. 292: 331-336, 2000. (学位論文)
- ⑨ Doi Y. et al. Neuroreport. 13: 93-96, 2002. (学位論文)
- ⑩ Muratani T. et al. J. Pharmacol. Exp. Ther. 303: 424-430, 2002. (学位論文)
- ⑪ Nishimura W. et al. Eur. J. Pharmacol. 503: 71-75, 2004. (学位論文)
- ⑫ Tatsumi S. et al. Neuroscience. 131: 491-498, 2005. (学位論文)
- ⑬ Takayama R. et al. Anesth & Analg 100: 1458-1462, 2005. (学位論文)
- ⑭ Sawai T. et al. Anesth & Analg 101: 1597-1601, 2005. (学位論文)
- ⑮ Shimizu S. et al. Anesthesiology 104: 791-797, 2006. (学位論文)

- ⑯ 川上真樹子. 大阪医科大学雑誌 65: 212-220, 221-231, 2006. (学位論文)
- ⑰ Soen M. et al. Eur. J. Pharmacol. 575: 75-81, 2007. (学位論文)
- ⑱ Nakahira J. et al. Bull. Osaka Med. Coll. 56: 49-57, 2010. (学位論文)
- ⑲ Shimoyama Y. et al. J. Clin. Anesth. 24: 531-536, 2012. (学位論文) (日本麻酔科学会若手研究者奨励賞)
- ⑳ Kusaka Y. et al. J. Cardiothorac. Vasc. Anesth. 26: 223-226, 2012. (学位論文)
- ㉑ Miyazaki S. et al. Eur. J. Pharmacol. 710: 120-127, 2013. (学位論文) (兵頭正義記念賞)
- ㉒ Kori K. et al. J. Altern. Complement. Med. 19: 946-950, 2013. (学位論文)
- ㉓ Majima N. et al. Bull. Osaka Med. Coll. 59: 37-44, 2013. (学位論文)
- ㉔ Shiomi M. et al. J. Anesth. 28: 593-600, 2014. (学位論文)
- ㉕ Shiomi M. et al. Eur. J. Pharmacol. 724: 58-66, 2014. (兵頭正義記念賞)
- ㉖ Kadono N. et al. Bull. Osaka Med. Coll. 60: 13-18, 2014. (学位論文)
- ㉗ Yamaguchi K. et al. Respir. Physiol. Neurobiol. 206: 11-14, 2015. (学位論文) (兵頭正義記念賞)
- ㉘ 久保田泰弘. 大阪医科大学雑誌 73: 75-80, 2014. (学位論文)
- ㉙ Omoto H. et al. Eur. J. Pharmacol. 760: 42-48, 2015. (学位論文) (兵頭正義記念賞)
- ㉚ Kuzukawa Y. et al. Anesth & Analg. 121: 1202-1206, 2015. (学位論文)
- ㉛ Fujiwara S. et al. Biomed. Res. Int. 190163, 2015. (学位論文)
- ㉜ Kusunoki T. et al. J. Clin. Anesth. 33: 37-40, 2016. (学位論文) (兵頭正義記念賞)
- ㉝ Kido H. et al. J. Clin. Anesth. 27: 476-480, 2015. 29:40-45, 2016. (学位論文)
- ㉞ Cho T. et al. Am. J. Emerg. Med. 34: 989-992, 2016. (学位論文)
- ㉟ Nakano S. et al. BMC Anesthesiol. 16: 32, 2016. (学位論文)
- ㊱ Kuwamura A. et al. J. Altern. Complement. Med. 21: 485-488, 2015. (学位論文)
- ㊲ Ishio J. et al. Bull. Osaka Med. Coll. 63: 21-28, 2017. (学位論文)
- ㊳ Mihara R. et al. Acute Med Surg. 5: 350-357, 2018. (学位論文)
- ㊴ Nakao K. et al. Evid Based Complement Alternat Med. 2356920, 2019. (学位論文) (兵頭正義記念賞)
- ㊵ Fujiwara A. et al. J. Anesth. 34: 373-381, 2020. (学位論文)

特許申請

技術内容: 神経因性疼痛抑制剤候補化合物  マウスで実証により誘発されるアロディニアを強力に抑制 マウス神経因性疼痛モデル (Chungモデル) で痛みを低減 ↓ 難治性の神経因性疼痛治療薬としての開発が期待できる	本技術に関する知的財産権 ■ 発明の名称: 神経因性疼痛を抑制するロリジン類似体 及びその製造法 特許出願番号: PCT JP2007/060489 出願人: 岐阜大学、関西医科大学、大阪医科大学 発明者: 鈴木正昭、古田孝史、伊藤誠二、南 敏明 ■ 発明の名称: プロリン類似体 特許出願番号: 特開2007-153755 出願人: 岐阜大学、関西医科大学、大阪医科大学 発明者: 鈴木正昭、古田孝史、伊藤誠二、南 敏明
--	---

医局員からのコメント



中尾 謙太 講師(准)

入局のススメ

本年度より医局長を務めております中尾です。

時が過ぎるのは早く、入局してから10年以上が経過し、気付けば医局の中堅となりました。入局してから本当に

様々なことを経験させて頂き、あっという間でした。毎日ひたすら心臓麻酔を研修した日々、動物実験に苦悩する日々、海外での学会発表など、どれもこれも大変でしたが、楽しかったいい経験と思えるのは医局の先輩後輩の支えがあったからです。当教室にはOBも含め多くの先生方が在籍され、麻酔の内容だけでなく人生相談まで親身になって応じてくれます。こういった人間関係をえられるのは医局に属する最大のメリットかと思います。

私の専門はペインクリニックですが、当教室のペインクリニックは歴史があり、地域や院内紹介患者数も多く、色んな症例が経験できます。全国で唯一の小児専門ペインクリニック外来や緩和ケアも学べます。また痛みの基礎研究も盛んで、科研費を獲得した先生方もたくさんおられ、痛みの基礎から臨床の知識と技術を学ぶには最高の環境が整っています。

ペインクリニックだけではなく、心臓麻酔は国立循環器病研究センター、心臓病センター榊原病院、天理よろづ相談所病院、小児麻酔は兵庫県立こども病院、緩和ケアは沖縄中部徳洲会病院など各専門分野の国内随一の有名施設で研修することが可能です。このような施設での研修は人気があり、なかなか個人では受け入れてもらえません。さらには、和歌山県立医科大学や琉球大学などの他府県の国公立大学病院で麻酔研修、鳥取大学医学部附属病院救急救命センターでの救急・集中治療研修が可能で、症例が豊富な大学病院を複数も経験できる多彩なプログラムが魅力だと思います。正直、私は今から当教室で研修できる先生方が羨ましいです。10年前の私なら、有名病院で研修しながら自己研鑽でき、週末は色んな場所で釣りやサーフィンできるし、最後は地元大阪に帰って来られて最高やん！って不純な動機で選んだと思います。

麻酔科は独り立ちが早い科で最初の5年間で非常に重要で、色々な施設、指導者に巡り合い、麻酔に関連する幅広い分野を経験することが大切です。当教室では決して強制の人事異動はなく、多彩なプログラムの中から各個人の意思を尊重した研修を受けることができると自信を持ってお勧めいたします。

当科を考えている先生は気軽にご相談ください。私自身もまだまだ発展途上ですので、向上心を持って一緒に勉強しましょう！



上野 健史 助教

麻酔科の基礎研究

私は大阪医科大学(現 大阪医科薬科大学)を卒業し、2015年に麻酔科学教室に入局しました。麻酔科学教室では他の科と同様に、臨床だけでなく教育や研究といった面でも役割を果たして

います。私たちの教室では痛みをテーマとした基礎研究を行っています。2021年のノーベル医学・生理学賞に痛みの研究が選

ばれたように、痛みの領域は非常に注目されてきています。その一方でまだまだ分かっていないことも多く、非常にやりがいのある研究テーマだと思います。

私たち研究に携わる医局員は、日々の臨床業務を行いながら時間を工面して研究を進めています。研究を始めた当初は分からないことばかりで遅々として進みませんでしたが、教授の南敏明先生・客員教授の伊藤誠二先生をはじめ、研究支援センターの方などを頼り、ひとつずつできることが増えていきました。自分たちの研究の進行状況を1~2か月ごとにカンファレンスで発表し、研究の妥当性や方向性に問題がないか、南先生と伊藤先生から指導を頂いています。

私は令和5年度の若手研究の種目で科学研究費助成事業(科研費)に応募し、幸いにして採択されました。科研費は、文部科学省および独立行政法人日本学術振興会(JSPS)が行う審査を経て得られる独創的・先駆的な研究に対する助成で、日本で研究を行う者にとって最も代表的な研究費です。科研費の応募にあたり、大学で申し込んだ外部の申請支援に加え、南先生・伊藤先生に申請書の草稿を何度もチェックして頂き、期限ギリギリまで直して提出しました。採択の連絡が来たときは素直に嬉しかったですが、科研費はあくまで研究を進めていくための手段に過ぎません。また今回だけではなく、次回以降も科研費を獲得し研究内容をまとめて、一つずつ成果をあげていきたいと考えています。

大阪医科薬科大学の麻酔科学教室では、手術麻酔・集中治療・ペインクリニックそれぞれの領域を経験することができます。忙しく働くなかでも、私たちの教室では発表や研究をサポートする体制が整っており、恵まれた環境と実感しています。日々の何気ない疑問や気付きをそのままにせず、突き詰めて形にし、学会発表や論文にまとめて多くの人に知ってもらうことは、医師として大きな力をつけることに繋がると 생각합니다。麻酔科医として成長したいと意欲のある方がおられましたら、私たち大阪医科薬科大学と一緒に働きませんか？



成尾 英和 助教(准)

真夏の沖縄で緩和ケア研修

みなさん「緩和ケア」にどのようなイメージをお持ちでしょうか。沖縄へ研修に行かせていただくまでは、「緩和ケア」と聞くと「がん患者さんの痛みが取れずに苦しんでいる姿」を連想してい

ました。おそらくその様なネガティブな印象をお持ちの方は少なくないと思います。

がん性疼痛の緩和には内科的なアプローチ(オピオイドの内服や貼付など)の他に、放射線科(緩和照射)や麻酔科(インターベンション)によるアプローチがあります。今回2022年夏の2ヶ月間、沖縄県にある中部徳洲会病院に伺い、疼痛治療のエキスパートである服部政治先生のもとでインターベンションの勉強をさせていただきました。その中で衝撃的だったことは、「オピオイド内服では痛みがとれず悶絶していた患者が、インターベンションにより即座に痛みがなくなり笑顔になる。」このような場面を幾度となく目撃したことです。ここでの緩和治療は、疼痛「緩和」というより、もはや「除痛」と言っても過言ではなく、「緩和ケア」に対するイメージが完全に覆されました。この経験を基に、大学でも今まで以上に緩和ケアに積極的にに関わり、多くの患者にインターベンションを行っております。

近年緩和ケア医を志される方も増えていると思いますが、

あまり麻酔科としてのアプローチは知られていないように感じます。麻酔科医として緩和治療に携わる方も増えることを期待しておりますので、「除痛」を目標とした緩和ケアに興味が出た方は、是非とも大阪医科薬科大学病院の麻酔科・ペインクリニックにお越し下さい。



金城 碧 天理よろづ相談所病院麻酔科 専攻医 天理よろづ相談所病院での 研修を終えて

2020年から大阪医科大学(現 大阪医科薬科大学)病院 麻酔科専門研修プログラムを実施中の金城 碧です。私は他大学を卒業した後に、当院での初期研修を経て入局いたしました。麻酔科1年目は大学病院で手術麻酔・集中治療・ペインクリニックについて経験を積み、2年目には北摂総合病院にて一般麻酔を学びました。3年目の現在は心臓麻酔や重症症例の多い天理よろづ相談所病院へ出向させて頂いております。

ここでは、心臓麻酔を後期レジデントの3人で担当しているため、週に1-3回程度の症例を経験することができます。弁膜症、大動脈疾患、虚血性心疾患と満遍なく症例があり、毎週の心臓血管外科との合同カンファレンスで疑問点などもすぐに質問ができる環境です。また、緊急手術も多く、事前準備の少ない状況で患者の状態を見極め、迅速で安全な麻酔管理を行うことなど多くの学びがあります。部長は厳しくも優しく、教育的な方であり通常の麻酔管理だけでなく積極的に学会発表も指導して頂きました。また同門の先生方以外にも他大学の医局の先生やフリーの麻酔科医の先生が多く勤務しており、全く違った考えに触れることができ非常に新鮮でした。

大阪医科薬科大学の麻酔科学教室には多くの関連病院があり素晴らしい先生方が在籍しており、非常に働きやすい環境だと思います。職場ではお互いに切磋琢磨し合い、それ以外では仲間として一緒に笑いあえるという、とても暖かい職場です。麻酔科を考えている方がいましたら是非一度見学に来てみて下さい。



高山 愛陽 北摂総合病院麻酔科 医員

レジデント2年間を終えて

2021年麻酔科入局の高山愛陽と申します。入局後最初の1年間は大学で後期研修を行い、2年目は北摂総合病院にて研修をさせて頂いております。初期研修は他の病院での研修でしたが、その際2ヶ月しか麻酔科を選択しておらず不安でした。しかし、大学では麻酔の手技や知識など1から丁寧に教えて頂き、徐々に成長するにつれ小児麻酔、心臓麻酔などリスクの高いものなど様々な症例を経験することができました。リスクの高い症例などは術前より上級医の先生に相談し、丁寧に指導して頂きました。また手術麻酔だけではなく集中治療やペインクリニックにもローテーションを行い、たくさん学ぶことができました。私生活でも同期や上級医の先生方に恵まれ、公私共にとても仲良くさせて頂き、とても楽しい研修期間でした。

2年目は北摂総合病院で研修させて頂きました。麻酔科の常勤医が2人だったので、経験豊富な麻酔科部長のご指導のもとで多

くの学びを得ました。症例の数が多く少人数のため、手技や症例の取り合いがなく、硬膜外麻酔、神経ブロックなど全ての手技を独り占めできました。緊急の重症例でも問題が生じた際は必ず部長がバックアップしてくださるという環境のもとで、自分で担当させて頂くことができとても力になりました。また、術前から術中、術後を通して周術期として患者の全身管理をさせて頂き、気になることがあれば部長とともに術前診察や麻酔方法などを含めてブリーフィングし、1つ1つの症例の理解を深めることができました。

麻酔科はオンオフがはっきりしており休日を謳歌でき、自分の趣味にも没頭できます。また大阪医科薬科大学病院は後期研修1年目の4月から関連病院に外勤として伺い、たくさんの上級医の方々からご指導を賜ることができるのも大きな魅力です。大阪医科薬科大学病院の麻酔科はとても明るく楽しい科だと自負しております。後期研修で迷っている方はぜひ一度見学にいらっしゃって下さい。心よりお待ちしております。



山東 正志 レジデント

こんな麻酔科医もいます

私は2008年に神戸大学法学部を卒業後、経営や経済に興味があったため大阪国税局に入局し、法人の税務調査を担当していました。税の仕組みや法人経営、会計学について学ぶことも大変興味深いものでとてもやりがいのある仕事でしたが、幼いころから医学にも興味があり、2014年に大阪医科大学に入学しました。大学卒業後は市中の病院で初期研修を行い、2022年に大阪医科薬科大学病院麻酔科・ペインクリニックでレジデントとして専門研修プログラムを開始させていただきました。このような異色の経歴を持つ私ですが、快く受け入れてくださり指導してくださる、南教授はじめ医局スタッフの先生方には大変感謝しております。

この1年で、約400症例を担当し、数多くの緊急症例や心臓血管麻酔も40症例以上経験させていただきました。またICUでは術後管理や重症敗血症、急性心不全や呼吸不全などの管理、ペインクリニックではがん性疼痛の緩和ケアや神経ブロック、硬膜外ブロック、くも膜下ポート植え込みなどについても学ばせていただきました。年齢を経て日々オペ場に立つことは決して楽なことばかりではありませんが、厳しい症例もどんどん経験させてもらうことができ、充実した研修を積むことができていると実感しています。レジデント2年目は沖縄の中部徳洲会病院で一般麻酔を学びつつ、緩和ケアも勉強させていただく予定です。希望すれば心臓血管麻酔や小児麻酔、緩和ケアなどのより専門性の高い施設で研修することもでき、とてもいい環境で働かせていただいていると感じています。

また当医局は若手の先生が多いため、明るく活気のある職場です。プライベートでもたくさんの先生と懇意にさせて頂いており、食事会やときには合同でキャンプなどにも行くことがあります。休日に自分の趣味を楽しむ時間が確保されている点も、当医局のアピールポイントだと思います。

大学病院の勤務において税務の知識を生かせる場面はあまりありませんが、当科に入局していただければ、少しは税金の相談に乗ることができるかも？かもしれません。みなさんの入局をお待ちしております。